

11月11日～12月12日
電池月間



でんち

社団法人 **電池工業会**
BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN
〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5-8
機械振興会館内
電話(03)3434-0261(代)
E-mail. bajapan@hi-ho.ne.jp
ホームページ http://www.baj.or.jp/
振替口座 東京8-91022
発行人 木村侃丘
定価1部郵送による年決め2,400円

平成15年6月1日

BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

第31回通常総会、第92回理事会を開催

社団法人電池工業会は、第31回通常総会及び第92回理事会を機械振興会館で開き、提出7議案はすべて可決承認された。これによって、平成15年度事業計画が決定し、電池工業会の委員会活動の改革、再資源化関係では小形二次電池の、回収、再資源化の実を更に向上させることと、自動車リサイクル法施行にあたり使用済み自動車用電池の回収、再資源化等、鉛電池の再資源化の仕組み作りを急ぐ。また環境問題は、日本のみの問題ではなく、欧米、アジア等グローバルな観点で各地域との環境問題について交流を深めて行く。

.....
平成15年5月16日、正会員21社（総員22名）の出席を得て、第31回通常総会が開催された。
電池工業会会長 田中千秋（日本電池株式会社社長）が議長となり、第1号議案から第7号議案までが審議された。各議案と審議内容は次のとおり。

-
(1) 第1号議案 会員入退会の件
正会員退会
ファルタマイクロバッテリープライベートリミテッド (H15.03.31)
賛助会員入会
ファルタマイクロバッテリープライベートリミテッド (H15.04.01)
株式会社関西新技術研究所 (H15.06.01)
の入会が承認された。

- (2) 第2号議案 平成14年度事業報告の件
IT関連業界の不振、デフレによる極端な消費の減退等、平成12年度、13年度と2年連続で前年をダウン



した電池業界だが、平成14年度は後半より日本でのカメラ付き携帯電話をはじめ、中国でのスペア電池付き携帯電話の販売が好調に推移し、2年ぶりにリチウムイオン電池が前年比2桁の増収の結果、3年連続の減収は避けることができた。以上のような状況下、当初87社でスタートした小形二次電池再資源化推進センターは、その会員数を1年後に141社にし、14年度末にその認知度も広がり、発足当初の2倍175社になり、対象電池の回収も重量ベースで前年比106%の実績を残した。

国際問題では、中国科学物理電源工業会と7月に責任者会議を実施、三極環境問題会議(TWG)を10月長野で開催、リチウムイオン電池の航空輸送に関しても、PRBAとの合同会議を2003年1月ワシントンで、2月にIATAの委員会に出席、またEUROBATの総会へ出席し、15年度日欧CEO会議の実現等積極的な海外への対応を行った。

標準化では、14年5月IEC/TC35のホスト国として、国際WG会議を東京で実施、米国でのノート型パソコン用リチウムイオン電池パックの安全性ガイドラインに付いては、その審議がIEEEの場に移され、平成15年に継続審議されることになった。

広報活動は総合広報として初年度の活動であったが、もともと三電池系合同での活動の場もあって、初年度より夫々特徴をもたせながら総合力を発揮でき成功であった。電池月間で毎年3万個のアルカリ乾電池を中央共同募金会傘下の各養護施設に寄贈してきたが、昨年は15年目という事で、中央共同募金会から感謝状を頂いた。

蓄電池設備認定、整備資格者講習事業は14年度、本講習9回、再講習11回実施、本講習の受講者788名、前年に比較し世相を反映し10%の減少となった。

これら電池を取巻く諸課題解決に向け活発な取組みがなされた旨の報告があり、原案どおり可決承認された。

(3) 第3号議案 平成14年度収支決算報告の件

収支が原案どおり可決承認された。収入の部984,204千円、支出の部690,101千円、次期繰越収支差額294,103千円。



田中 千秋会長



鈴鹿 芳朗副会長

(4) 第4号議案 平成15年度事業計画の件

電池の果たしている社会的役割は最先端電子機器の開発と共に、年々重要度を増している。それだけに電池に求められる、安全性の向上、環境適合面、標準化とポータビリティ等、多様な要件を満足させることが、年々強く求められてきている。一方東アジアの電池メーカーの台頭は著しく、更なる新技術対応が求められると同時に、安全面、環境対応面での商品差別化がより重要視されてくる。

平成15年度は、再資源化推進センターの3年目、自動車リサイクルの施行を翌年に控え、仕組み作り、組織化、廃掃法の改正、一次電池の環境課題等、電池業界を取巻く状況は、環境対応を中心に、激しい変化と厳しい要求が押寄せせる1年と予想されるが、各課題解決を積極的に取組んで行く。旨の説明があり原案どおり承認された。

(5) 第5号議案 平成15年度予算の件

予算案638,280千円が原案どおり可決承認された。

(6) 第6号議案 理事、監事選任の件

- ・ 重任理事 青木竹宏、阿部昌明、鈴木惟司、井植敏雅、中川 裕、鈴鹿芳朗、田中千秋、赤井紀男、小松治夫、今井雅也、石田 徹、大坪愛雄、木村侃丘
- ・ 新任理事 大内 仁、臼井正信、彦坂洋二
- ・ 重任監事 高橋捷彦、中村俊輔

を選任する旨説明があり原案どおり可決承認された。



井植 敏雅副会長



石田 徹副会長

(7) 第7号議案 会員代表者変更

- ・ 正会員新代表
(株)東芝 大内秀夫 バッテリーエネルギー事業部長
- ・ 賛助会員新代表者
伊勢化学工業(株) 大塚 功 取締役社長
同和鋳業(株) 山田健昭 電子材料事業部長
東邦亜鉛(株) 海保芳和 執行役員

なお、総会の前に第92回理事会を開催、通常総会に提出する議案を審議した。また総会を途中中断し第93回理事会を開催し、田中千秋会長、鈴鹿芳朗、井植敏雅、石田 徹各副会長、専務理事木村侃丘を選出した。

また総会終了後、同会館5階に於いて懇親パーティーを開いた。来賓として経済産業省 商務情報政策局 情報通信機器課 環境リサイクル室・川上室長の出席を得て、ご挨拶をいただいた。



経済産業省 川上室長

2003NEW環境展に出展

5月27日から30日までの4日間、東京ビッグサイト(有明)で開催された環境展に電池工業会と小形二次電池再資源化推進センターが共同で出展し、電池の正しい使い方と小形二次電池の回収リサイクルの協力要請を主体に啓発活動を行った。

来場者数は13万450名(約33,000名/日)で、自治体、環境事業関係者、市民団体、企業の環境担当者等の来場も多く、会場内の空きスペースが殆どなくなったことと合すると、循環型社会への各界の取組みが定着して来たことが感じられた。

又、今回、啓発活動の手段として、DVDを用いたテレビ放映を初めて行い、小形二次電池のリサイクル啓発を行った。

なお、環境展は9月3日～6日にインテックス大阪でも開催されるので、ここでも出展し関西地区でのPR活動を展開する。



JBRC 小形二次電池再資源化推進センター 第3回総会開催

JBRC小形二次電池再資源化推進センターでは、平成13年4月発足後、3年目を迎え、『第3回総会』を5月13日機械振興会館において開催した。



当日は、会員企業174社から、参加者75名(70社)、委任状100社を集め、平成14年度事業報告、収支実績報告を行い、平成15年度事業計画並びに15年度予算計画の承認を得た。

また、第2期の運営委員19社の承認を得て、運営委員長に三洋電機(株)の中谷氏、副委員長には、松下電工(株)の板垣氏、松下電池工業(株)の大嶋氏が就任された。

総会終了後、懇親会が行われ、経済産業省の情報通信機器課環境リサイクル室川上室長並びに、環境省企画課リサイクル推進室長門室長から昨年度の回収成果を踏まえた来賓御挨拶を頂き、各社会員各位との懇親が深められた。

JIS改正

「電解二酸化マンガン」 「アセチレンブラック」

JIS K 1467:2003「電池用電解二酸化マンガン」とJIS K 1469:2003「電池用アセチレンブラック」が、平成15年5月20日に改正された。

電解二酸化マンガンとアセチレンブラックは、電池の主要材料で、電池の性能と品質に大きく影響を持つものであることから、電解二酸化マンガンは昭和40年にJIS K 1467:1965「電解二酸化マンガン」として、またアセチレンブラックは、昭和41年にJIS K 1469:1966「アセチレンブラック」として制定されていた。

その後、昭和58年と昭和59年にそれぞれ改正が行われたが、今回、平成13年度に改正審議を標準化委員会で行い、工業標準化法の第12条に基づく申出を行っていた。

この改正原案は、その後、日本工業標準調査会の審議を経て、このたび平成15年5月20日に官報公示

されるとともに(財)日本規格協会から発行された。

今回の改正では、用途分野をより明確にするため、規格名称を「電池用電解二酸化マンガン」および「電池用アセチレンブラック」へ変更するとともに、SI単位(国際単位系)への統一や、品質、試験方法の項目および内容の見直しを行った。



業界動向

***ガートナー・ジャパン** 2002年の国内PDA・ハンドヘルドの出荷台数は68万台で前年比21%のマイナスになった。尚首位はソニー (4月1日付 電波)

***サムスン電子** エアコン、電子レンジ等の家電製品の海外生産を大幅に拡大。2010年には世界シェア10%を目指す。 (4月1日付 日経産業)

***野村興産** 水銀汚染土壌の無害化、リサイクル事業の拡大を目指し、大型回収設備の増設に着手。 (4月1日付 日刊工業)

***政府** 商品情報を登録するバーコードの後継と見られる「電子タグ(荷札)」の標準基準作りを乗り出す。 (4月1日付 日経)

***東芝** 携帯電話用リチウムイオン電池を2割増産、月間生産能力を400万台強に引き上げる。 (4月2日付 日経産業)

***環境省** 企業の環境報告書を審査する制度を2004年に導入、内容に統一性を持たせる事で利用者が各社の取り組みを比較し易くさせる。 (4月3日付 日経・タ刊)

***大阪デザインセンター** グッドデザイン商品として松下電器の補聴器用空気亜鉛電池等3点を平成14年度年間賞に決定した。 (4月4日付 電波)

***電機大手各社** 現地会社に法務機能を設置、模倣品の流通率抑制等知財戦略を強化へ。 (4月4日付 日刊工業)

***太陽光発電協会** 太陽電池の総出荷(国内生産、輸入、輸出を合わせたもの)が2002年は前年比44%増の258メガワットになり、市場規模1000億円を突破した。 (4月4日付 化学工業日報)

***三洋電機** ロボットメーカーのテムザック(北九州)と合弁でロボットの販売・マーケティングを行う新会社を設立、リチウムイオン電池を電源に使う家庭用歩行ロボットの本格的な販売に乗り出す。 (4月4日付 化学工業日報)

***タツノ・メカトロニクス** 燃料電池車に水素を供給する水素ステーション用計量充填機の量産に目処をつけた。(4月5日付 日刊工業)

***国内パソコンメーカー** 主要21社は10月から日本郵政公社と提携し、不要の家庭用パソコンを共同で回収する事を決めた。 (4月6日付 朝日)

***三菱化学** リチウムイオン電池用電解液の生産で中国に進出する事を明らかにした。 (4月7日付 日刊工業)

***全国石油商業組合連合会(ガソリンスタンドの業界団体)** 全国5万箇所のガソリンスタンドをリサイクル拠点として活用する為の研究を本格化させる。 (4月7日付 日刊工業)

***NTTドコモ** 来月ドコモで新シリーズとしてカメラ付携帯電話6機種を発売する。その内3機種は100万~130万画素のデジカメを搭載してデジカメ市場に影響を与えそう。 (4月9日付 日経産業&日刊工業)

***エコ腕時計** 時計メーカー各社は、光、腕の振動を使い発電、電池を使用しない「エコ腕時計」の品揃えを拡充中。 (4月10日付 日経)

***日立製作所** グループ各社と燃料電池を共同開発、2005年の参入を目指す。 (4月11日付 日経)

***資源総合システム** 2002年の世界の太陽光発電設備生産量が、初めて日米欧の3地域でそれぞれ10万キロワット以上を達成した。 (4月11日付 日刊工業)

***マルチメディア総合研究所** 2002年度国内の携帯電話出荷台数が4000万台を超え、カメラ付き携帯電話が昨年度は7%であったものが、60%になった。 (4月11日付 日経)

***携帯電話(中国)** 競争激化で収益が悪化した事から、中国の携帯通信メーカーで設備投資抑制へ。日米欧の機器メーカーに影響がありそう。 (4月14日付 日経)

***GM(米)** 2004年8月に電気自動車事業から撤退、HEV車に環境対応車の主力を切り替える。 (4月14日付 日経)

***BMW、GM&オベル** 燃料電池車に使う水素の貯蔵部品や水素供給装置を共同開発、2010年までの発売を目指す。 (4月14日付 日経タ刊)

***パワー・ペーパー(イスラエル)** 薄く柔軟性のある薄型電池を開発、玩具、スキンケア商品、バーコードへの応用等、用途は様々な分野に広がりがつある。 (4月17日付 日経産業)

***富士キメラ総研** 2003年の世界におけるカメラ付き携帯電話生産が、前年比3.4倍の7,500万台に拡大した。又カメラ画素数は日本では100万画素数の物が登場予定でデジカメ市場を侵食しそう。 (4月17日付 日刊工業)

***日本自動車工業会** 宗国会長、2003年の国内販売は585万台は可能である旨を語る。 (4月18日付 日経)

***環境省** 家電4品目の2002年度の回収台数が、昨年度は1000万台を突破、前年度比19%増になった。 (4月19日付 電波)

***三洋電機** 資材仕入れ先に対し、納入仕様書に納入物品が含有する化学物質について記載を求める方針を決める。環境に配慮した資材調達を徹底するのが狙い。 (4月18日付 日刊工業)

***SII** 2005年度までに、全商品を環境に配慮した「グリーン商品」に切り替える。 (4月21日付 日経産業)

***昭和電工** 太さがナノ(ナノ=10億分の1)メートルレベルの極細炭素繊維の製販事業を強化、リチウムイオン電池の材料として売り込みをかける。(4月21日付 日経産業)

***NTTドコモ** 第三世代携帯電話の技術を、シンガポールと香港の大手携帯電話会社に供与する。ここを足掛かりに世界標準の座を目指す。 (4月22日付 日経)

***東京R&D** ニッケル水素電池を搭載した電気スクーターを開発した。最高時速は50キロメートル、走行距離/充電は時速30キロメートルで一定走行した場合で50キロメートル。(4月22日付 日経産業&日刊工業)

***環境省** 化学物質や環境リスクについて正確な情報を分かり易く解説する事で、リスクコミュニケーションを推進していく化学物質アドバイザーの派遣を同日から試行的に開始した事を発表。 (4月23日付 日刊工業)

***桐蔭横浜大学/宮坂教授** 「色素増感型」タイプで自由に折り曲げが出来るフィルム状の太陽電池を開発した。(4月23日付 日経産業)

***大阪ガス** 家庭用FC向けに液化石油ガス(LPG)の改質装置を開発した。07年3月からFC本体に組み込み、1キロワット以上の規模で実用化を目指す。 (4月23日付 日刊工業)

***石川島播磨重工業(IHI)** 溶融炭酸塩形FCシステムの事業化に向けた取り組みを強化する。現在300キロワット級設備を開発、商用機を含む3基を受注中。 (4月23日付 日刊工業)

***物質・材料研究機構** TDKと共同でリチウムイオン電池用黒鉛材料の性能を向上させる新プラズマ技術を開発した。 (4月24日付 化学工業日報)

***電子情報技術産業協会(JEITA)** 2002年度のパソコンの主要メーカーの国内出荷実績が、前年度比9%減の1兆6167億円となり1996年度の調査開始以来最低になった。 (4月24日付 日経、電波)

***AT&Tワイヤレス(米)** 使用済みの端末本体、携帯電話用電池とアクセサリについて、再利用や再資源化を進める本格的なリサイクルプログラムを開始した。尚、本件は米環境保護局(EPA)が支援をする。 (4月24日付 電波)

***NECトーキン** 中国の2工場のフル活用により、リチウムイオン電池の生産を05年までに、月産1200万個に拡大へ。昨年実績からは2.4倍の能力になる。 (4月25日付 化学工業日報)

***総合科学技術会議(議長:小泉首相)** 地球温暖化対策技術研究開発推進戦略を決めた。重点的に取り組むものとして燃料電池技術開発等6項目が取り上げられている。(4月25日付 化学工業日報)

***マイボイスコム(インターネット調査会社・東京)** PDA利用者は約8%で携帯と機能が重複している事が普及の壁になっている旨の調査結果を纏める。 (4月25日付 日経産業)

***三洋電機** 03年度にリチウムイオン電池の生産能力(月産)を前年度比30%増の4千3百万個に引き上げる。 (4月25日付 日経)

***内閣府** 3月末時点での耐久消費財の保有状況を纏めた。デジカメの世帯普及率は32%、DVD:25.3%、パソコン:63.3%、携帯電話:83.3%。 (4月28日付 日経)

***三菱電機** アルカリ乾電池のデザインを一新、重負荷性能を向上させたアルカリ乾電池(単1形~単4形)の新製品を5月から発売する。 (4月26日付 電波)

***ニプロン(電源装置メーカー・尼崎)** PC・サーバー向けに無停電機能を持たせた電源装置用のニッケル水素電池パックを開発、5月から発売する。 (4月30日付 日経産業)

***京都産業大学・理学部** 太陽光発電と水の電気分解を利用し、水素を高効率で製造するシステムを開発した。機械加工メーカー二社と共同で大学発ベンチャーを設立、実用化を急ぐ。 (4月30日付 日刊工業)

***IDC(米ハイテク調査会社)** 1-3月期の世界のPDA出荷台数は245万2千台と、前年同期比で21、3%落ち込んだ。 (4月30日付 日経産業)

平成15年5月度の電池工業会活動概要

部会	委員会・会議	主な審議、決定事項
特別会議	13日(火) 一次・小形二次広報WG	*活動テーマの中味とスケジュール等の確認と決定
	13日(火) IEV用語調整会議	*IEC/電池用語規格の一次、小形二次、二次電池各技術委員会の調整
	16日(金) 第92回理事会、第31回総会	*任期満了に伴う理事の選任、平成14年度事業報告、決算、平成15年度事業計画、予算と会員入退会を審議
	20日(火) 広報二次電池WG	*キャンペーン企画、バッテリー賞等の各種準備活動報告
	20日(火) 広報一次小形二次電池WG	*でんちフェスタ企画検討
	20日(火) 広報委員会	*本年度活動テーマの中味、分担とスケジュールの確認と決定等
	28日(水) 環境総合委員会	*EU電池指令改訂関係報告、廃棄物処理法改正案に対する意見纏め
二次電池部会	7日(水) (自)リサイクル特別委員会	*自動車用電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	7日(水) 資材委員会	*再生鉛の利用について
	7日(水) 自動車鉛分科会	*今年度改正JIS(D5301)の改正作業。IEC提出コメントの内容確認
	8日(木) (自)リサイクル特別委員会	*自動車用電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	8日(木) 自動車用電池委員会	*自動車用電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	9日(金) HEV用電池分科会	*ハイブリット自動車用ニッケル水素電池規格案(寿命試験)の懸案事項
	13日(火) 充電器分科会	*SW式整流装置の規格化の検討
	13日(火) 用語分科会	*SBA「規格票作成マニュアル」制定案の技統委員会資料
	13日(火) (自)リサイクル特別委員会	*自動車用電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	14日(水) (自)リサイクル特別委員会	*自動車用電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	14日(水) 二次電池部会(鉛5社)	*自動車用電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	14日(水) 36V電池分科会	*自動車技術会42V分科会への端子規格案提案報告
	15日(木) (自)リサイクル特別委員会	*自動車用電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	15日(木) 小形鉛分科会	*昨年度作成SBA指針(安全・取扱い指針)の解説。今年度活動計画
	20日(火) 電気車鉛分科会	*今年度改正予定のSBA「小形電動車用制御弁式鉛蓄電池」の対応について
	21日(水) 据置鉛分科会	*来年度改正のJIS(C 8704-2:制御弁式)の構成、改正の進め方
	22日(木) 産業電池技術サービス分科会	
	22日(木) (自)リサイクル特別委員会	*自動車用電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	23日(金) (自)リサイクル特別委員会	*リサイクラー見学・調査、新リサイクルスキーム審議
	23日(金) (自)技術サービス小委員会	*昼間ライト点灯アンケート実施方法。バッテリーテスター問題対応方法
	26日(月) 二次電池PL委員会	*02年下期 バッテリー爆発事故集計まとめと対策案検討
	27日(火) (自)リサイクル特別委員会	*自動車用電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	27日(火) (自)市販小委員会	*新リサイクルスキーム広報について
28日(水) (自)リサイクル特別委員会	*自動車用電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議	
29日(木) (自)直需小委員会	*自動車用電池の新リサイクルスキームについて	
29日(木) 二次電池技術委員会	*JIS1件、SBA指針2件の改正/制定原案の審議	
30日(金) (自)需要予測小委員会	*自動車用バッテリー需要予測まとめ	
小形二次電池部会	19日(月) 再資源化委員会アルカリ分科会	*回収量アップにむけた廃棄ルートの確認調査方法の検討
	20日(火) ニカド・ニッケル水素分科会	*IEC/SC21A/バリ会議審議内容の確認、JIS原案作成審議
	21日(水) 再資源化委員会リチウムイオン分科会	*用途別排出量の調査方法の検討及びマンガン系の再資源化課題検討
	22日(木) 再資源化委員会	*産業構造審議会ガイドライン対応および回収量アップ対策審議
	27日(火) リチウム2次分科会	*IEC/SC21A/バリ会議審議内容の確認、JIS原案作成審議
	27日(火) 業務委員会	*統計資料に関する課題の整理等の審議
	29日(木) 海外環境委員会	*EUアンケートの対応、6月国際会議への準備等を検討した
	30日(金) PL委員会	*新年度の活動計画の検討、一次PL委員会との統一化を検討した
一次電池部会	30日(金) 小形二次電池技術委員会	*分科会、WG審議内容の確認。SBA G 1101の廃止審議
	7日(水) 課題検討連絡会	*対象電池の選別と電池別の課題の確認、及び分担の決定
	21日(水) 業務委員会	*活動テーマの確認と一次電池課題検討連絡会への対応策の決定
	22日(木) PL委員会	*活動テーマの確認と小形二次PLとの合同問題に対する方策の決定
	28日(水) JIS小委員会	*JIS「一次電池通則」改正審議
28日(水) IEC小委員会	*IEC/TC35/バリ会議審議内容の確認と対策審議	

●●●●● 新製品ニュース ●●●●●

— デオドライザー エアリオン・シリーズ —

無香料消臭剤「エアリオン・スプレー」

平成15年4月より発売開始

東芝電池株式会社(東京都品川区、社長 鈴鹿芳朗)は消臭器 消臭剤「エアリオン」シリーズの新商品「エアリオン・スプレー」を4月より発売します。

当社は、昨年、株式会社環境浄化研究所(群馬県高崎市、社長 須郷高信)がグラフト重合法を応用して開発した消臭剤を使用する消臭器「エアリオン DC-210(W)」、「エアリオン・ミニ DC-220(W)」、「エアリオン・スリム DC-230(W)」の3機種を発売し、一般家庭の生活悪臭は勿論のこと、自宅介護現場まで、その効果は大きな反響を呼んでおります。

グラフト重合法による消臭剤は、悪臭の分子を化学反応によって吸着し、無臭・無害にさせる優れた消臭能力を持ちながら、花やアロマ、コーヒーの香り等の天然の芳香は取らないと言う従来品にはない大きな特長を持ちます。

家庭用消臭器を販売する中で、「是非、即効性のある消臭剤を!」との消費者からの強い要望に応える形で、この4月よりエアゾール・タイプの「エアリオン・スプレー」を発売することになりました。家庭内で使える240mlと女性が携帯できる75mlの2種類を予定。特に75mlは外出先やちょっとした心遣いに最適です。



— 特長 —

- ・ 悪臭の分子を芳香剤で包み込み、悪臭を感じなくさせる従来のマスキング法ではなく、最新技術グラフト重合法によって開発された無香料消臭剤です。
- ・ 悪臭の分子を化学反応によって吸着するので、消臭速度が速く、一度吸着した悪臭を再放出しません。
- ・ 花や天然アロマなど芳香は消臭せず、生ゴミ臭、ペット臭など、生活悪臭のほとんどを消臭します。
- ・ シックハウスの原因となるホルムアルデヒドや、タバコからでるアセトアルデヒドも吸着します。

— 単3形は大電流機器に対応し約130%高性能化 —

三菱アルカリ乾電池POWERアルカリEXシリーズ新発売のおしらせ

三菱電機株式会社(社長:野間口 有)は、現在急成長している大電流機器に欠かせない電源として、性能および信頼性を大幅に向上させたアルカリ単3乾電池をはじめとして、デザインを一新し、従来品と同価格に抑えたアルカリ乾電池「POWERアルカリEX」シリーズ(計14形名)を5月21日より発売いたしますのでお知らせいたします。

小型デジタル機器(デジタルカメラ、MDプレーヤー、携帯ゲーム機、PDA等)の急増に伴い、ますます大電流を必要とするデジタル時代を迎えています。

こうした機器に大電流を安定して供給できる重負荷性能に優れるのが、高性能アルカリ乾電池「EXシリーズ」です。

— 特長 —

- ・ 大電流を必要とする乾電池対応機器に応えるべく、高出力条件での電池性能が約130%アップ。(従来品単3形比)
 1. 亜鉛粒子の最適化を図り、重負荷領域に於ける反応効率をアップ。
 2. 合剤の密度を高めることにより、二酸化マンガンの充填量をアップ。
 3. 導電性皮膜及び正極缶の肉厚を見直し、寿命とパワーのアップ。

〈各使用機器別比較〉

- ・ デジタルカメラ相当 約1.30倍の長寿命(300mA 59.5秒+2,000mA 0.5秒 終止電圧1.0V)
- ・ モバイル機器相当 約1.20倍の長時間使用(1,000mW連続放電 終止電圧0.9V)
- ・ 重負荷玩具相当 約1.10倍の長時間使用(1,500mA連続放電 終止電圧0.9V)
- ・ 携帯ゲーム機相当 約1.04倍長時間使用(115mA連続放電 終止電圧0.85V)

- ・ 使いやすくクオリティーなニューデザイン。
十極・一極の表示を大きくし、左右非対称デザインにしたことで逆装填防止に努め、わかりやすいデザインにしました。さらに高性能・高品質を示す金色を使用しました。



3月度電池および器具販売実績(機械統計)

(平成15年3月)

単位:数量=千個、金額=百万円(本年よりマンガン乾電池の単二がその他に含まれました)

	単 月				1月~当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
電池・器具総合計	543,105	62,768	103%	103%	1,465,786	172,579	106%	105%
全電池合計	542,331	61,397	103%	103%	1,463,482	168,731	106%	106%
一次電池計	399,845	13,363	105%	97%	1,061,147	35,530	107%	102%
マンガン乾電池計	77,413	1,519	79%	78%	219,900	4,306	84%	83%
単一	9,763	446	96%	87%	27,738	1,336	97%	92%
単三	39,619	607	70%	71%	110,585	1,606	76%	76%
その他	28,031	466	90%	80%	81,577	1,364	92%	84%
アルカリ乾電池計	134,048	6,499	120%	109%	328,098	16,071	119%	109%
単三	91,268	3,800	123%	111%	214,013	8,966	122%	112%
単四	24,509	1,145	112%	104%	63,421	2,884	108%	97%
その他	18,271	1,554	118%	110%	50,664	4,221	118%	111%
酸化銀電池	87,719	970	119%	115%	235,285	2,652	111%	109%
リチウム電池	94,877	4,104	108%	90%	262,641	11,827	119%	102%
その他の乾電池	5,788	271	64%	54%	15,223	674	83%	77%
二次電池計	142,486	48,034	98%	105%	402,335	133,201	102%	107%
鉛電池計	3,677	13,412	95%	93%	10,161	36,077	97%	96%
自動車用	2,129	6,325	103%	96%	6,050	18,699	104%	98%
二輪用	405	828	86%	90%	1,172	2,339	96%	98%
小形シール	877	956	89%	94%	2,226	2,578	83%	93%
その他	266	5,303	81%	91%	713	12,461	89%	93%
アルカリ電池計	74,373	8,871	76%	78%	216,573	26,559	81%	82%
完全密閉式	32,930	3,757	77%	80%	106,678	12,347	92%	95%
ニッケル水素	41,373	4,692	75%	79%	109,747	13,140	72%	74%
その他のアルカリ電池	70	422	219%	51%	148	1,072	211%	66%
リチウムイオン電池	64,436	25,751	151%	130%	175,601	70,565	151%	129%
器具計	774	1,371	111%	91%	2,304	3,848	103%	89%
携帯電灯	461	398	134%	87%	1,242	1,213	106%	98%
電池器具	313	973	89%	93%	1,062	2,635	100%	86%

3月度電池輸出入実績(財務省貿易統計)

(平成15年3月)

単位:数量=千個、金額=百万円(少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります)

	単 月				1月~当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計(輸 出)	284,641	29,951	96%	99%	776,344	81,537	101%	100%
一次電池計	162,707	3,380	98%	92%	442,687	9,336	104%	99%
マンガン	48,121	420	86%	92%	125,340	1,112	87%	95%
アルカリ	30,171	548	179%	163%	66,915	1,344	149%	159%
酸化銀	23,659	346	70%	80%	82,754	1,097	89%	92%
リチウム	59,069	2,023	106%	85%	162,594	5,643	118%	94%
空気亜鉛	1,544	28	68%	63%	4,356	76	65%	58%
その他の一次	143	15	46%	36%	728	62	74%	60%
二次電池計	121,934	26,572	93%	100%	333,658	72,201	98%	100%
鉛蓄電池	297	694	69%	95%	898	1,969	74%	92%
ニカド	27,517	2,444	73%	70%	86,635	7,708	91%	84%
ニッケル鉄	5	3	10%	46%	12	4	24%	39%
ニッケル水素	35,040	3,242	84%	84%	85,743	8,369	75%	77%
リチウムイオン	48,648	17,554	125%	108%	129,328	47,264	136%	109%
その他の二次	10,428	2,635	82%	114%	31,042	6,886	93%	104%
全電池合計(輸 入)	56,450	4,605	147%	119%	178,462	12,678	153%	111%
一次電池計	53,096	1,696	151%	124%	167,291	4,050	155%	114%
マンガン	10,476	148	124%	111%	41,363	530	143%	124%
アルカリ	38,267	711	160%	134%	115,401	2,126	162%	127%
酸化銀	65	2	14%	21%	215	5	17%	18%
リチウム	1,075	115	87%	83%	2,979	266	109%	80%
空気亜鉛	315	10	217%	114%	1,539	47	135%	104%
その他の一次	2,898	709	289%	129%	5,794	1,076	279%	104%
二次電池計	3,355	2,909	105%	117%	11,172	8,628	123%	109%
鉛蓄電池	521	1,420	113%	116%	1,534	4,325	109%	108%
ニカド	1,545	316	91%	61%	5,969	1,002	152%	77%
ニッケル鉄	0	0	-	-	0	1	0%	19%
ニッケル水素	-	-	-	-	-	-	-	-
リチウムイオン	-	-	-	-	-	-	-	-
その他の二次	1,288	1,172	123%	158%	3,669	3,301	98%	128%